

2024年3月期 決算説明会資料

株式会社サニックス
2024年5月15日

1. 2024年3月期 決算概況

P.3

2. 中期経営計画の数値目標の見直し

P.21

3. 2025年3月期 通期業績見通し

P.30

4. トピックス

P.36

5. 補足資料（事業構造）

P.39

<注意事項>

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。

2024年3月期 連結決算概況

2024年3月期 連結決算概況

前期比 増収・増益

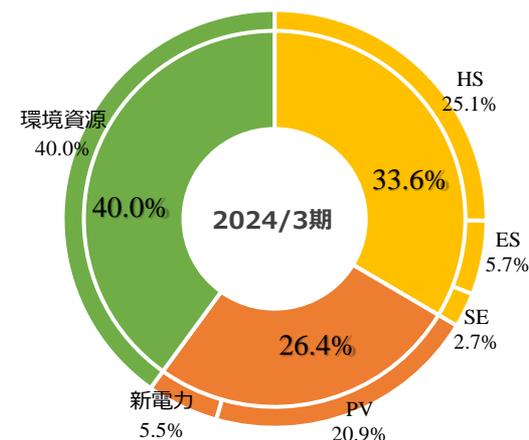
- 売上高では、新電力部門における事業構造の転換を進めた影響があったものの、苫小牧発電所の売電単価が上昇したことにより増収
- 営業利益では、全事業領域において前期を上回る結果となり、特に、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇したことが大きく寄与し増益

単位:百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	46,277	47,167	47,965	101.9%	98.3%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	16,208 35.0%	18,102 38.4%	17,668 36.8%	111.7%	102.5%
営業利益 (売上高営業利益率)	1,785 3.9%	3,744 7.9%	3,231 6.7%	209.7%	115.9%
経常利益 (売上高経常利益率)	1,552 3.4%	3,466 7.3%	3,014 6.3%	223.3%	115.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (売上高当期純利益率)	1,332 2.9%	2,697 5.7%	2,495 5.2%	202.5%	108.1%

2024年3月期 売上高

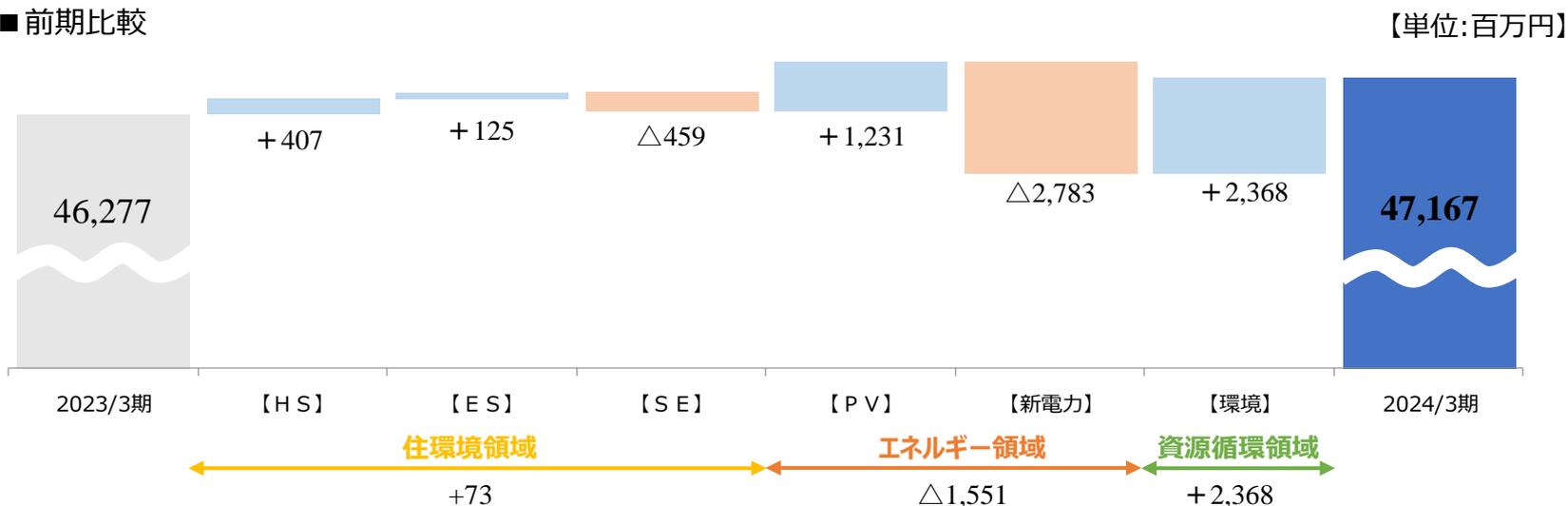
単位:百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	46,277	47,167	47,965	101.9%	98.3%
住環境領域	15,751	15,824	17,337	100.5%	91.3%
エネルギー領域	14,007	12,455	12,493	88.9%	99.7%
資源循環領域	16,518	18,886	18,134	114.3%	104.2%

売上高構成比



■ 住環境領域 ■ エネルギー領域 ■ 資源循環領域

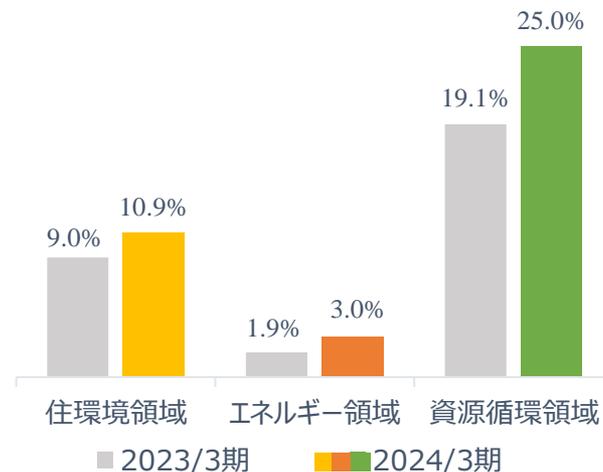
■ 前期比較



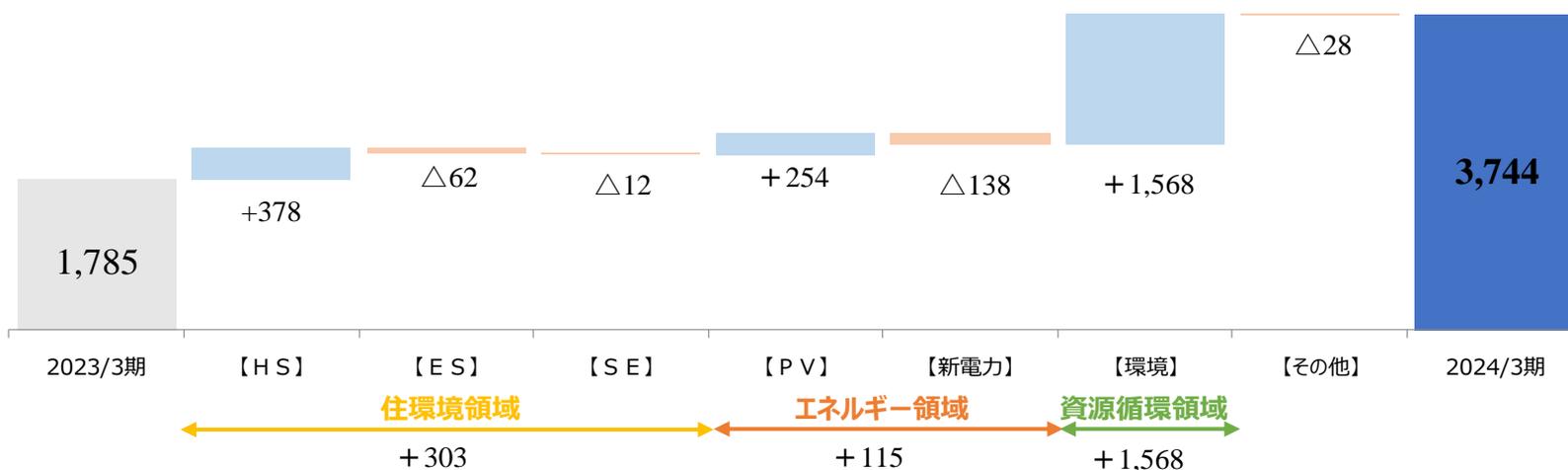
2024年3月期 営業利益

単位:百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
営業利益	1,785	3,744	3,231	209.7%	115.9%
住環境領域	1,421	1,724	2,281	121.3%	75.6%
エネルギー領域	261	377	104	144.1%	359.5%
資源循環領域	3,153	4,722	3,611	149.8%	130.8%
配賦不能	△ 3,050	△ 3,079	△ 2,766	-	-

営業利益率



■ 前期比較



【住環境領域】



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サンニクスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

HS(ホーム・サニテーション)部門

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)部門

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

SE(ソーラー・エンジニアリング)部門

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

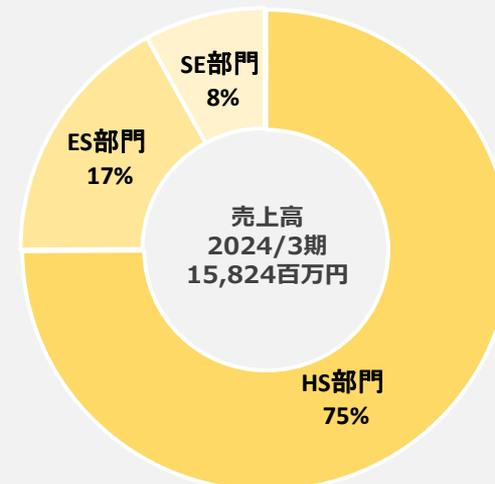


住宅用太陽光発電システム



蓄電池

住環境領域 売上高構成比



【住環境領域】

【HS事業部門 概況（前期比較）】

● 増収・増益

新規顧客の開拓を重視した営業方針を強化し、顧客基盤の拡充に向けた取り組みを推進したことから「白蟻防除施工」、「床下・天井裏換気システム」が堅調に推移したことで増収
 増収に加え、外注工事費の減少、ならびに販管費等の固定費の削減効果により増益

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	11,449	11,857	12,837	103.6%	92.4%
白蟻防除施工	3,939	4,141	4,408	105.1%	93.9%
床下・天井裏換気システム	2,869	2,979	3,279	103.8%	90.9%
基礎補修・家屋補強工事	1,692	1,653	1,918	97.7%	86.2%
その他	2,948	3,083	3,232	104.6%	95.4%
売上総利益	6,870	7,214	7,771	105.0%	92.8%
営業利益	1,337	1,716	2,080	128.3%	82.5%



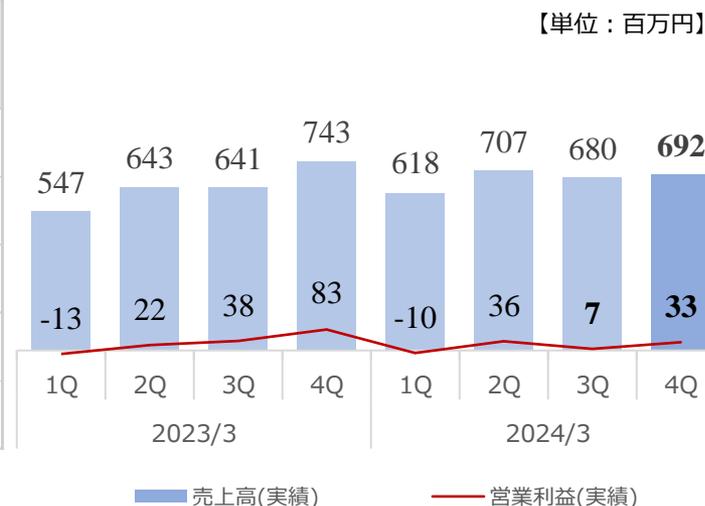
【住環境領域】

【E S事業部門 概況（前期比較）】

● 増収・減益

ビル・マンション等のオーナー及び管理会社等提携先との関係強化により、「建物給排水補修施工」が堅調に推移したことから増収。一方で、原価率の高い商品構成となったことにより減益

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	2,575	2,700	2,600	104.9%	103.9%
防錆機器取付施工	1,138	1,015	1,220	89.2%	83.2%
その他	1,436	1,684	1,380	117.2%	122.1%
売上総利益	1,344	1,293	1,443	96.2%	89.6%
営業利益	130	67	163	51.8%	41.4%



【住環境領域】

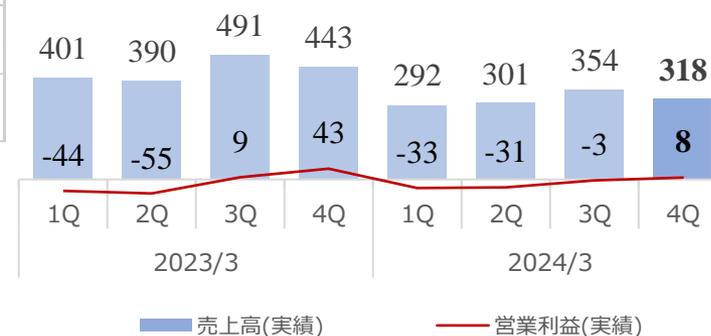
【S E 事業部門 概況（前期比較）】

● 減収・減益

蓄電池の販売、既設太陽光発電システムのパワーコンディショナー交換工事は増加したものの、業務提携先の開拓に人員を割いたことにより、一時的に売上水準が低下

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	1,726	1,267	1,900	73.4%	66.7%
売上総利益	607	360	639	59.4%	56.4%
営業利益	△ 47	△ 59	37	—	—

【単位：百万円】



【エネルギー領域】



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サンニクスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

PV部門

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

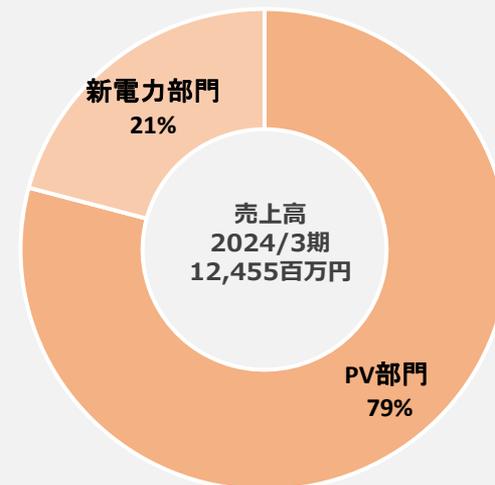
新電力部門

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

エネルギー領域 売上高構成比



【エネルギー領域】

【PV事業部門 概況（前期比較）】

● 増収・増益

非FIT電源開発、法人向け自家消費型太陽光の施工を積極的に展開し、契約件数が堅調に推移したことに加え、材料資材等の価格上昇を受け販売価格を見直したことにより増収・増益

第3四半期に建設用電線の新規調達が困難な状況となり、各種建設工事に遅れが発生していたが、足元では改善しつつある

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	8,625	9,857	10,119	114.3%	97.4%
施工売上	8,389	9,716	9,912	115.8%	98.0%
卸売上	143	49	120	34.5%	41.2%
その他	93	91	87	98.0%	104.3%
売上総利益	1,928	2,227	2,099	115.5%	106.1%
営業利益	22	276	102	—	270.2%



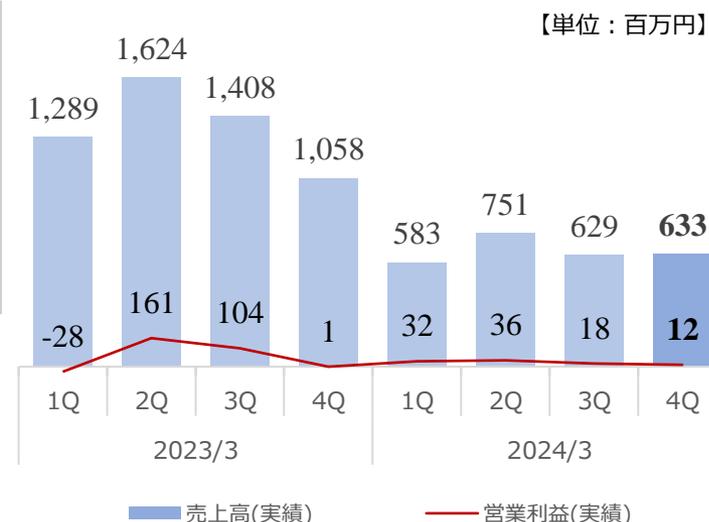
【エネルギー領域】

【新電力事業部門 概況（前期比較）】

● 減収・減益

前期より事業構造の転換を進め、売上規模が前期に比べて半分程度となったことで減収・減益となったものの、市場調達に頼らない事業構造へと見直したことにより採算性を確保（計画に対しては、想定を上回り堅調に推移）

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	5,381	2,598	2,373	48.3%	109.5%
売上総利益	419	222	150	53.1%	148.5%
営業利益	239	100	2	42.0%	-



【資源循環領域】



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サンイクスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発電熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



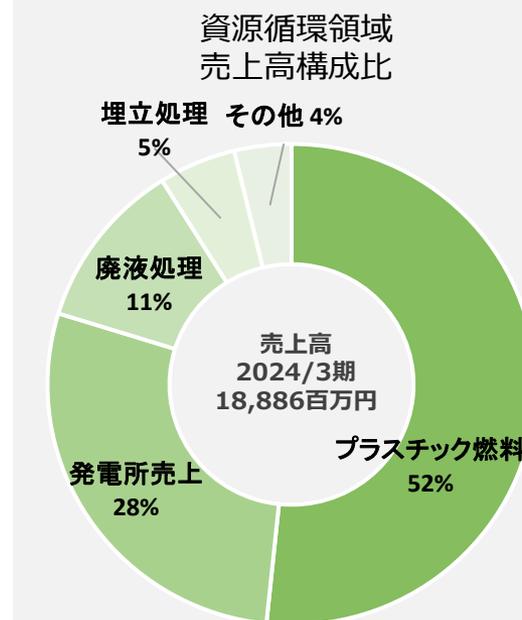
最終処分場

廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場



【資源循環領域】

【環境資源開発事業部門 概況（前期比較）】

● 増収・増益

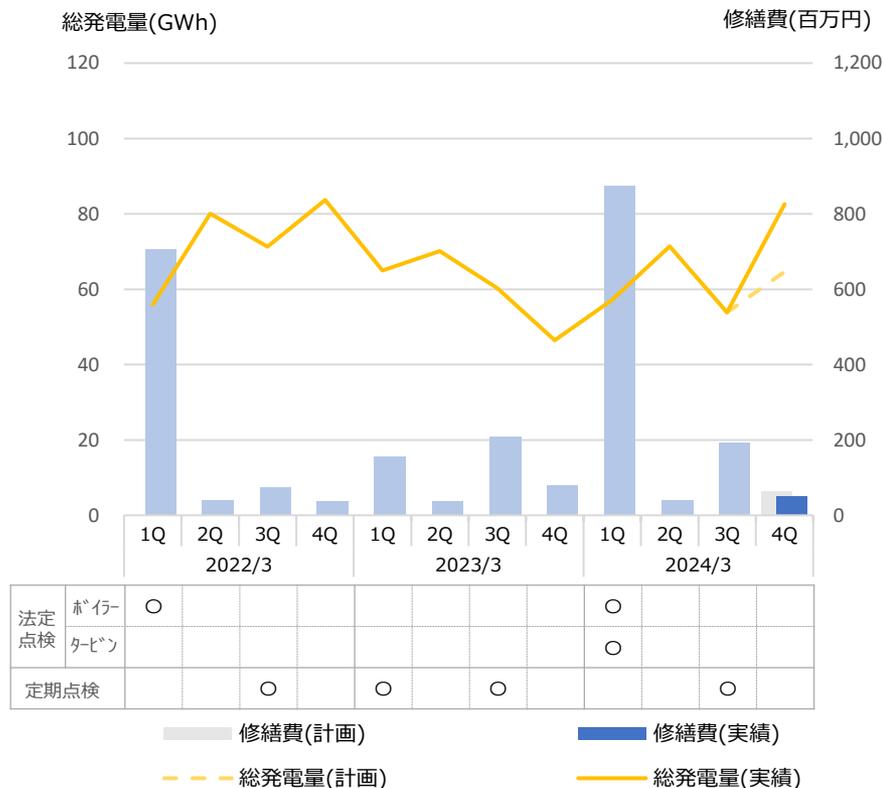
苫小牧発電所において、法定点検(2023年3月中旬から4月末)を実施したことで修繕コストが増加したものの、売電契約単価が上昇したことにより採算性が向上し増収・増益

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2024/3期 計画	前期比	計画比
売上高	16,518	18,886	18,134	114.3%	104.2%
プラスチック燃料	9,829	9,754	9,985	99.2%	97.7%
発電所売上	3,122	5,312	4,837	170.1%	109.8%
廃液処理	2,059	2,139	2,120	103.9%	100.9%
埋立処理	1,014	966	688	95.3%	140.3%
その他	492	713	501	144.9%	142.3%
売上総利益	5,037	6,784	5,563	134.7%	121.9%
営業利益	3,153	4,722	3,611	149.8%	130.8%

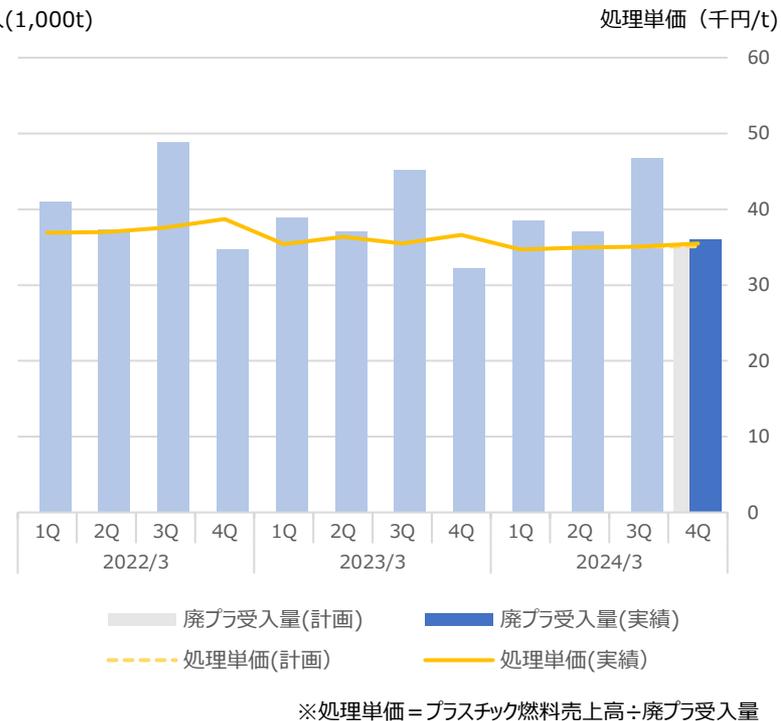


環境資源開発部門の各種推移

苫小牧発電所の稼働状況



廃プラスチックの受入状況



- 2024年3月期 法定点検：2023年3月中旬から4月末 実施
 ※法定点検 2年に1度実施 (タービン：4年ごと、ボイラー：2年ごと)

自己資本比率が24.1%となり、前期末に対して+6.1ポイント改善

単位:百万円	2023/3期	2024/3期	前 期	
	期末	期末	差異	前期比
流動資産	13,683	16,211	2,527	118.5%
固定資産	19,902	20,753	851	104.3%
資産合計	33,586	36,965	3,379	110.1%
流動負債	16,382	18,010	1,628	109.9%
固定負債	11,135	10,042	△ 1,092	90.2%
負債合計	27,518	28,053	535	101.9%
純資産合計	6,068	8,912	2,843	146.9%
負債純資産合計	33,586	36,965	3,379	110.1%
自己資本比率	18.0%	24.1%		

設備投資・減価償却費 実績

単位：百万円	2023/3期 実績	2024/3期 実績
住環境領域	51	16
エネルギー領域	63	328
資源循環領域	1,322	2,238
本社	129	159
設備投資合計	1,566	2,743
減価償却費	1,889	1,654

【主な設備投資】

【資源循環領域】

- 廃プラスチック処理設備にかかる投資：940百万円
- 埋立処理にかかる投資：612百万円
- 苫小牧発電所にかかる投資：433百万円
- 廃液処理にかかる投資：231百万円

【エネルギー領域】

- 自治体向けPPAにかかる投資：139百万円

セグメント別 人員・拠点数

	2023/3期 期末		2024/3期 期末		人員増減
	拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S 部門	63	853	62	864	+11
E S 部門	12	160	12	162	+2
S E 部門	14	81	14	75	△6
P V 部門	35	254	30	245	△9
新電力部門	1	15	1	13	△2
環境資源開発部門	18	444	19	455	+11
本社	—	247	—	235	△12
合 計	—	2,054	—	2,049	△5

※上記拠点数には、同一拠点を含みます

※環境資源開発部門は、発電所 1 拠点、最終処分場 1 拠点含む

重要経営指標

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 計画	2024/3期 実績
自己資本当期純利益率	ROE	27.9%	—	24.8%	35.0%	36.1%
総資産経常利益率	ROA	6.4%	—	4.5%	9.0%	9.8%
自己資本比率		24.5%	13.5%	18.0%	22.0%	24.1%
投下資本利益率	ROIC	11.2%	—	8.4%	14.0%	14.4%

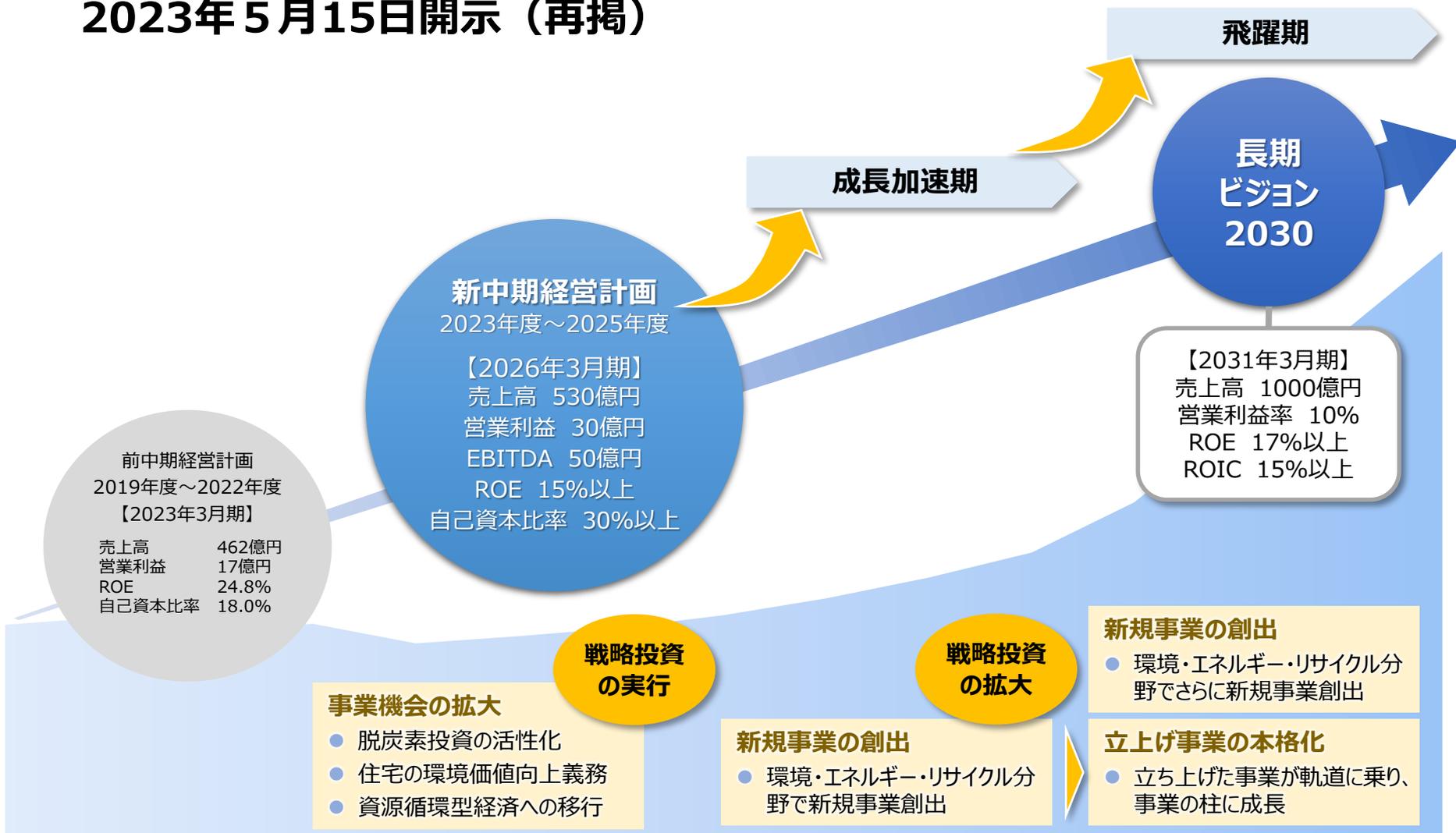
(単位：百万円)

	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 計画	2024/3期 実績
設備投資	3,083	2,776	1,566	2,400	2,743
減価償却費	1,097	1,509	1,889	1,800	1,654

中期経営計画の数値目標の見直し

長期ビジョンと中期経営計画

2023年5月15日開示（再掲）



中期経営計画の数値目標の見直し

数値目標の見直し

	2024/3期			2025/3期			2026/3期		
	当初計画	実績	差異	当初計画	修正計画	差異	当初計画	修正計画	差異
売上高	47,965	47,167	△797	50,000	46,246	△3,754	53,000	51,500	△1,500
営業利益	3,231	3,744	+512	3,200	1,715	△1,485	3,000	2,800	△200
EBITDA	4,800	5,398	+598	4,900	3,500	△1,400	5,000	4,900	△100
ROE	35.0%	36.1%	+1.1	24.0%	11.6%	△12.4	16.0%	17.0%	+1.0
ROIC	14.0%	14.4%	+0.4	12.0%	6.4%	△5.6	10.0%	10.0%	△0.0
自己資本比率	22.0%	24.1%	+2.1	27.0%	25.4%	△1.6	30.0%	29.0%	△1.0

※ EBITDA = 「営業利益 + 減価償却費」

2023年5月15日に公表いたしました中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）の2025年3月期及び2026年3月期の数値目標を見直しました。

なお、中期経営計画に掲げております以下の基本方針・基本戦略などに大きな変更はありません。

1. 既存事業の着実な成長により「稼ぐ力」を強化し、**安定的な財務基盤**を確保
2. 財務健全性を確保した上で**戦略投資枠**を設定し、将来の成長に向けた**積極的な成長投資を開始**
3. 安定した利益の積上げにより、**早期復配**への道筋をつける

中期経営計画の数値目標の見直し【事業領域】

数値目標の主な見直し要因

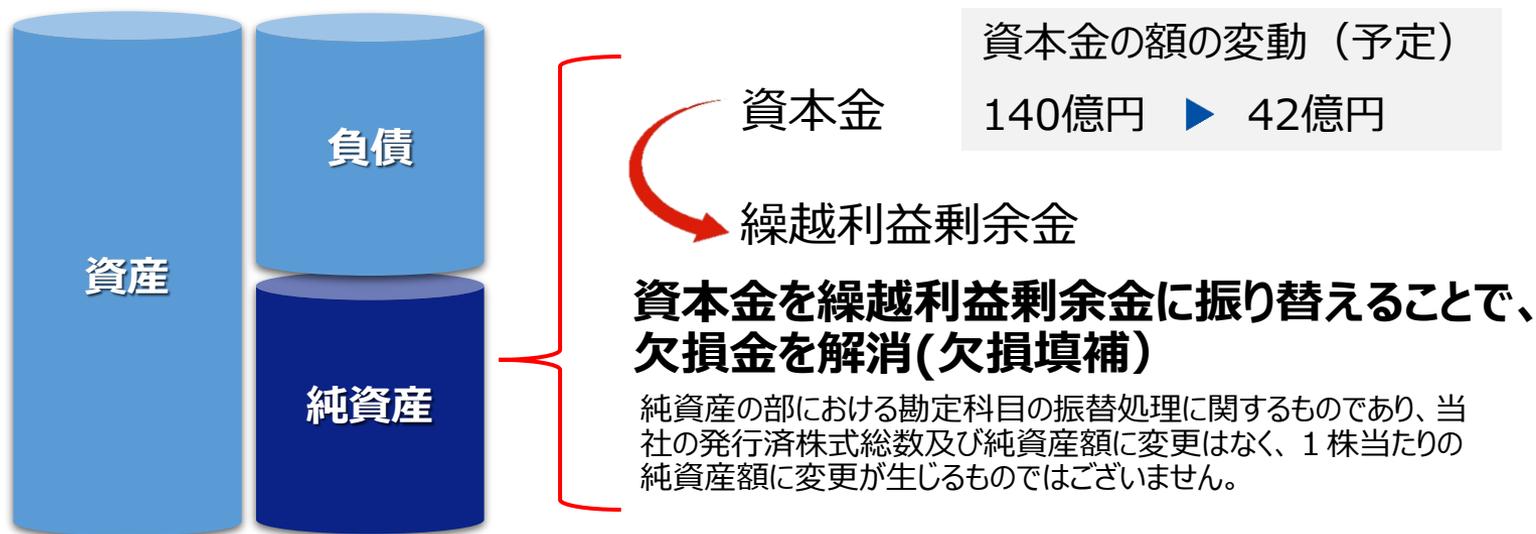
- 資源循環領域における苫小牧発電所の売電単価について、2025年3月期以降、エネルギー価格高騰の長期化による電力価格を見込んでおりましたが、足元では想定よりも電力市場価格が下落してきたこともあり、苫小牧発電所における売電価格を見直しました。
- エネルギー領域における法人向け太陽光発電事業において、脱炭素社会への取り組みの本格化と電力コストの高騰により太陽光発電の需要・引き合いは増えてきておりますが、受注から施工までの期間が長期化していることから売上計上時期を見直しました。

単位：百万円	2024/3期			2025/3期			2026/3期		
	計画	実績	差異	当初計画	修正計画	差異	当初計画	修正計画	差異
売上高	47,965	47,167	△797	50,000	46,246	△3,754	53,000	51,500	△1,500
住環境領域	17,337	15,824	△1,512	18,300	17,704	△596	19,300	18,600	△700
エネルギー領域	12,493	12,455	△38	14,600	12,320	△2,280	16,500	16,000	△500
資源循環領域	18,134	18,886	+752	17,000	16,221	△779	17,000	16,800	△200
営業利益	3,231	3,744	+512	3,200	1,715	△1,485	3,000	2,800	△200
住環境領域	2,281	1,724	△557	2,379	2,379	+0	2,500	2,500	+0
エネルギー領域	104	377	+272	461	252	△209	900	1,000	+100
資源循環領域	3,611	4,722	+1,111	2,988	1,863	△1,125	2,100	1,800	△300
配賦不能	△2,766	△3,079	△313	△2,630	△2,780	△150	△2,500	△2,500	+0

資本政策について

欠損金の解消について

当社は、2024年5月15日開催の取締役会において、2024年6月27日開催予定の第46回定時株主総会に、「資本金の額の減少及び剰余金の処分の件」について付議することを決議いたしました。

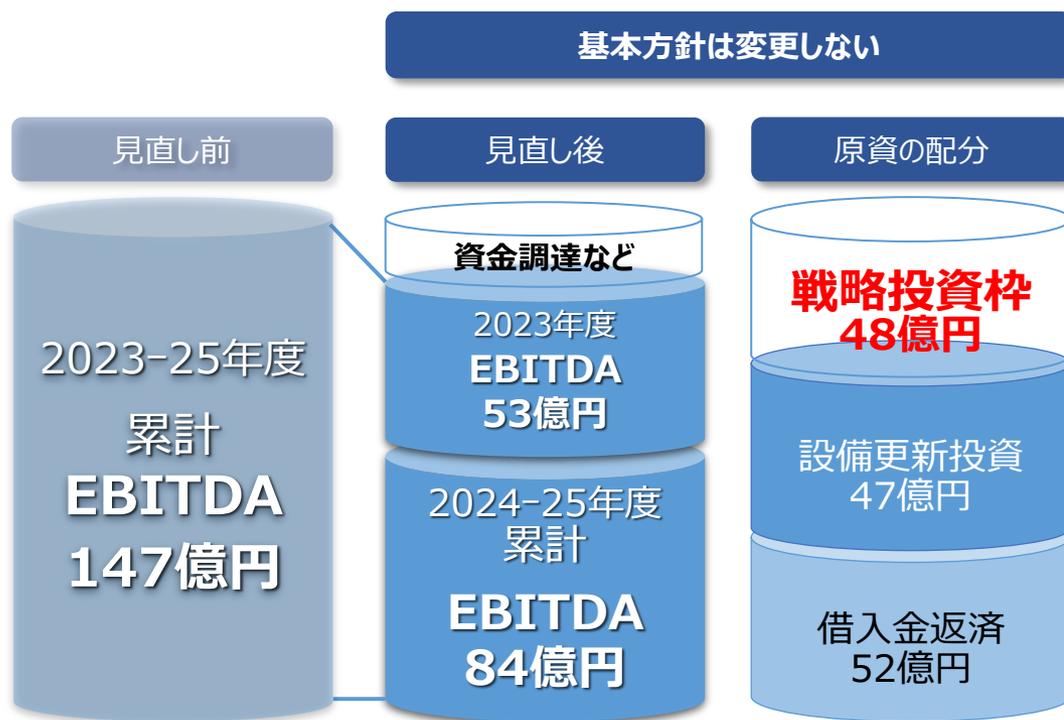


財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策の柔軟性と機動性の確保

安定した利益を確保し、早期復配へ

資源配分について

- 中期経営計画期間において事業全体の「稼ぐ力」を強化
- 数値目標の見直し後、3ヶ年累計EBITDAは147億円から**137億円**となる見込み
- 数値目標は見直すが、戦略投資に関する基本方針は変更しない
- 借入金返済・設備更新を除く部分については**戦略投資枠**とし、成長の原資として配分する



3年間で**48億円**の 戦略投資枠設定

設備投資（既存拡大・新規）

- ・マテリアルリサイクルへの参入
- ・廃棄物燃料化設備の増強・新設
- ・苫小牧発電所の発電性能向上

研究開発投資

- ・太陽電池モジュール リサイクル実証

人的投資

- ・高度専門人材の確保
- ・積極的人材採用、育成

M & A・提携

- ・成長の加速（エリア・サービス拡大）
- ・シナジー創出

IT投資

- ・サイバーセキュリティの強化
- ・BI/RPA等のツール活用による業務効率化

※ EBITDA = 「営業利益 + 減価償却費」

「成長投資」の進捗について

成長投資 既存設備の増強・効率化

【廃液処理事業】

- 「再生油Bio」の製造ラインを増設（詳細P.36参照）
 → 2024年3月より稼働開始

済

生産能力 2,160t/年

約2倍へ

生産能力 4,320t/年



【廃液処理事業】

- 有機性廃液に含まれる汚泥分を
 固形燃料化するラインを新設予定
 → 2026年3月期からの稼働開始を見込む

国内最大規模の廃液処理施設

施設の処理能力

1,300^m³/日

多種多様な廃液を処理

廃液処理工場（ひびき工場）

福岡県北九州市若松区響町1丁目1-8



成長投資 事業領域の拡大

【プラスチック事業】

- マテリアルリサイクルを本格開始
 → マテリアルリサイクル破碎設備
 富士工場、真岡工場 導入済
 その他工場においても随時導入予定

済

Next Step

富士工場 ペレット製造設備を導入予定
 → 廃棄物の出口が多様化（販路拡大）

太田工場 前処理設備を導入予定
 → 処理能力が大幅に向上

【プラスチック事業】

- 廃棄物業務一元管理システムによる
 資源循環ネットワークの構築
 → 廃棄物業務一元管理システム
 「一元くん」シリーズの販売開始（詳細P.27参照）

成長投資 事業化に向けた研究開発

【新規事業の研究開発】

- 使用済み太陽光発電パネルのリサイクル処理実証を開始
 → 破碎設備導入予定：2024年8月

廃棄物業務一元管理システムについて

廃棄物業務一元管理システム「一元くん」シリーズの販売開始

各種業務の省力化・効率化、「見える化」によるコストの適正化・環境貢献（環境エース一元くんは、5月20日にCO₂排出量集計機能を追加予定）が可能。あらゆるシーンに対応し、多くの事業者様からご好評いただいております。



▶ 環境エース一元くん（排出事業者向け）

廃棄物の回収・処理の流れ、量やリサイクル率など、廃棄物のすべてを「見える化」し、適正で効率的な業務遂行を実現するシステム

2022年4月1日 販売開始（旧商品名：「SANIX system」）



▶ 収運エース一元くん（収集運搬事業者向け）

一般廃棄物に関する契約、受付、配車、収集運搬、車両管理、各種集計といった、収集運搬業務を「見える化」し、適正で効率的な業務遂行をサポートする専用システム

2023年5月1日 販売開始（旧商品名：「SANIX system pro」）



▶ 産廃エース一元くん（中間処理事業者向け）

見積書の作成、マニフェスト作成、入金・支払い管理といった、中間処理業務をデジタル化し、適正で効率的な業務遂行をサポートする専用システム

2024年5月15日 販売開始

導入実績

一部をご紹介します

株式会社 大紀アルミニウム工業所	株式会社東武百貨店
東洋アルミニウム株式会社	株式会社サンエー化研
岩塚製菓株式会社	株式会社ソーゴ
東海化成工業株式会社	大光炉材株式会社
株式会社だい久製麺	株式会社アイワコーポ
五光物流株式会社	株式会社 アートハウスクリーン

※順不同にて記載

「環境エース一元くん」及び「収運エース一元くん」の名称変更は、廃棄物関連の一元管理システムにおけるブランディングを刷新するために、社内公募で案を募り、決定いたしました。これは、社員の意見を尊重し、社内のコミュニケーションを活性化するための取り組みの一環です。

持株会社体制への移行

持株会社体制への移行（2025年4月1日予定）

サンイクスグループは、あらゆる経営環境の変化にも迅速に対応し、持続的な成長を実現していくためには、持株会社体制への移行が最適であると考え、持株会社体制への移行について準備を開始することといたしました。

当社3事業領域の住環境領域、資源循環領域、エネルギー領域ごとの事業会社に事業承継する予定としております。

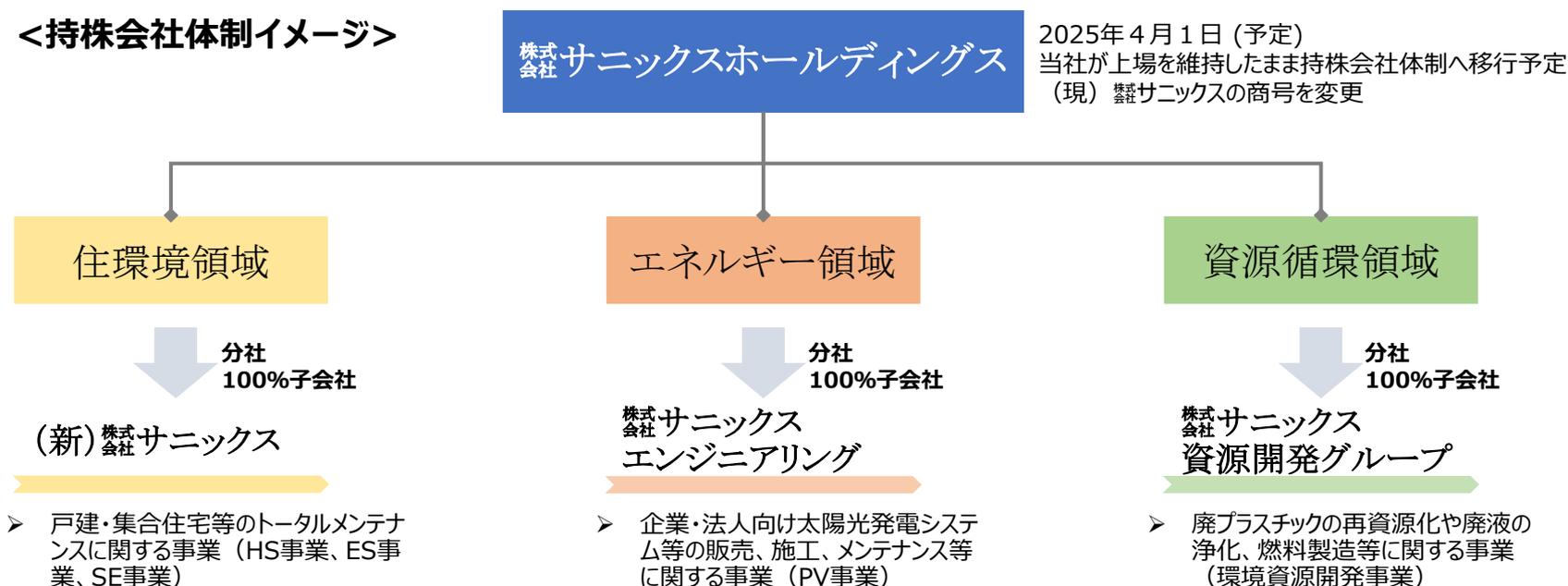
<移行スケジュール>

2024年5月15日	持株会社体制への移行及び資源循環領域事業会社「株式会社サンイクス資源開発グループ」の設立に関する取締役会決議
2024年5月29日（予定）	資源循環領域事業会社との吸収分割契約締結に関する取締役会決議
2024年6月27日（予定）	当社の商号及び目的の定款変更に関する定時株主総会決議
2024年9月27日（予定）	住環境領域事業会社の設立に関する取締役会決議
2025年4月1日（予定）	持株会社体制への移行



▲詳細はこちら▲

<持株会社体制イメージ>



2025年3月期 通期連結業績見通し

2025年3月期 通期連結業績見通し

●売上高 46,246百万円 (前期比 98.0%)

●営業利益 1,715百万円 (前期比 45.8%)

	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
単位：百万円						
売上高	22,726	+137	23,519	△1,058	46,246	△921
売上総利益	7,848	△700	8,153	△1,400	16,001	△2,100
(売上高売上総利益率)	34.5%		34.7%		34.6%	
営業利益	613	△868	1,102	△1,159	1,715	△2,028
(売上高営業利益率)	2.7%		4.7%		3.7%	
経常利益	483	△860	957	△1,165	1,440	△2,025
(売上高経常利益率)	2.1%		4.1%		3.1%	
親会社株主に帰属する当期純利益	366	△759	727	△843	1,093	△1,603
(売上高当期純利益率)	1.6%		3.1%		2.4%	

2025年3月期セグメント別 通期連結業績見通し

● 主な影響

- 住環境領域 増収増益の見通し：営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大
- 資源循環領域 減収減益の見通し：苫小牧発電所の売電単価低下

単位：百万円	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
売上高	22,726	+ 137	23,519	△ 1,058	46,246	△ 921
住環境領域	8,977	+ 1,073	8,726	+ 805	17,704	+ 1,879
エネルギー領域	6,115	+ 629	6,204	△ 764	12,320	△ 134
資源循環領域	7,633	△ 1,565	8,587	△ 1,099	16,221	△ 2,665
営業利益	613	△ 868	1,102	△ 1,159	1,715	△ 2,028
住環境領域	1,336	+ 483	1,043	+ 171	2,379	+ 655
エネルギー領域	174	+ 155	78	△ 279	252	△ 124
資源循環領域	566	△ 1,414	1,297	△ 1,443	1,863	△ 2,858
配賦不能	△ 1,464	△ 92	△ 1,316	+ 391	△ 2,780	+ 299

2025年3月期セグメント別見通し 【住環境領域】

●前期比 増収・増益

- 既存顧客への継続的なフォロー体制の拡充及び、法人営業体制強化による顧客件数の増加を図る
- 白蟻防除から住宅環境ニーズへ幅広く対応（住宅用PPAや蓄電池など）
- 集合住宅向けには、防錆機器（商品名：ドールマンショック）から給排水設備の保全対策へ拡大

単位：百万円	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売 上 高	8,977		+ 1,073	8,726		+ 805	17,704		+ 1,879
H S 部 門	6,816	75.9%	+ 832	6,502	74.5%	+ 628	13,318	75.2%	+ 1,461
E S 部 門	1,366	15.2%	+ 39	1,433	16.4%	+ 59	2,800	15.8%	+ 99
S E 部 門	795	8.9%	+ 200	791	9.1%	+ 117	1,586	9.0%	+ 318
売 上 原 価	3,941	43.9%	+ 559	4,066	46.6%	+ 492	8,008	45.2%	+ 1,051
うち、材料費	1,378	15.4%	+ 250	1,402	16.1%	+ 215	2,781	15.7%	+ 465
うち、労務費	1,320	14.7%	+ 78	1,388	15.9%	+ 158	2,708	15.3%	+ 237
売 上 総 利 益	5,035	56.1%	+ 514	4,660	53.4%	+ 313	9,695	54.8%	+ 828
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	3,699	41.2%	+ 30	3,617	41.4%	+ 141	7,316	41.3%	+ 172
うち、人件費	2,332	26.0%	+ 92	2,333	26.7%	+ 137	4,665	26.4%	+ 230
営 業 利 益	1,336	14.9%	+ 483	1,043	12.0%	+ 171	2,379	13.4%	+ 655

2025年3月期セグメント別見通し【エネルギー領域】

●前期比 減収・減益

- 太陽光発電システムにおいては、「自家消費」太陽光発電システム販路拡大を図るとともに、既設太陽光発電所の機器交換・アフターメンテナンスの体制強化を進める
- 苫小牧発電所の非化石価値電力の付加価値を有効活用した売電を推進

単位：百万円	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	6,115		+ 629	6,204		△ 764	12,320		△ 134
P V 部門	4,898	80.1%	+ 746	4,986	80.4%	△ 720	9,884	80.2%	+ 26
新電力部門	1,217	19.9%	△ 117	1,218	19.6%	△ 44	2,436	19.8%	△ 161
売上原価	4,917	80.4%	+ 468	5,072	81.7%	△ 483	9,989	81.1%	△ 15
うち、材料費	3,427	56.0%	+ 246	3,498	56.4%	△ 420	6,925	56.2%	△ 173
うち、労務費	316	5.2%	+ 17	316	5.1%	+ 12	633	5.1%	+ 29
売上総利益	1,198	19.6%	+ 161	1,132	18.3%	△ 280	2,330	18.9%	△ 119
販売費・一般管理費	1,024	16.7%	+ 5	1,054	17.0%	△ 1	2,078	16.9%	+ 4
うち、人件費	539	8.8%	△ 7	572	9.2%	+ 1	1,112	9.0%	△ 6
営業利益	174	2.8%	+ 155	78	1.3%	△ 279	252	2.1%	△ 124

2025年3月期セグメント別見通し 【資源循環領域】

●前期比 減収・減益

- プラスチック事業においては、設備投資による受入量の拡大及び販路拡大
- プラスチック原料として再利用する「マテリアルリサイクル」への展開を進める
- 契約書・マニフェスト、自治体への実績報告等のサポートに加え、サステナビリティ報告に必要な排出量算出ができるように、廃棄業務管理システムの機能を拡充
- 廃液処理においては、重油代替燃料「再生油 B i o」の製造増強や、廃液処理後に発生する汚泥の再生燃料化を推進

単位：百万円	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売 上 高	7,633		△ 1,565	8,587		△ 1,099	16,221		△ 2,665
プラスチック部門	5,049	66.2%	△ 33	5,213	60.7%	△ 171	10,263	63.3%	△ 204
発電部門	1,053	13.8%	△ 1,565	1,850	21.5%	△ 844	2,903	17.9%	△ 2,409
廃液部門	1,136	14.9%	+ 126	1,198	14.0%	+ 69	2,335	14.4%	+ 196
埋立部門	393	5.1%	△ 93	324	3.8%	△ 154	718	4.4%	△ 248
売上原価	6,018	78.8%	△ 190	6,227	72.5%	+ 333	12,246	75.5%	+ 143
うち、労務費	995	13.0%	+ 45	1,004	11.7%	+ 4	1,999	12.3%	+ 50
売上総利益	1,614	21.2%	△ 1,375	2,360	27.5%	△ 1,433	3,974	24.5%	△ 2,809
販売費・一般管理費	1,048	13.7%	+ 39	1,063	12.4%	+ 9	2,111	13.0%	+ 48
うち、人件費	637	8.3%	+ 36	640	7.5%	+ 5	1,278	7.9%	+ 42
営業利益	566	7.4%	△ 1,414	1,297	15.1%	△ 1,443	1,863	11.5%	△ 2,858

トピックス

資源循環型社会の実現に向けた取り組み

廃棄物由来燃料「再生油Bio」の製造ラインを増設

製造能力 2,160t/年 ▶ 4,320t/年へ

資源循環型社会の実現を加速するために、当社は、廃液処理工場において廃棄物由来の重油代替燃料「再生油Bio」の製造ラインをこれまでの2倍に増設し、2024年3月から稼働を開始いたしました。



▶ 再生油Bio

外食チェーン等の飲食店から発生する廃水や汚泥などの産業廃棄物から、ゴミや汚泥分を除去し、油分のみを分離回収することで、化石燃料の代替燃料として利用可能にした再生燃料です。動植物性由来の油分を原料とする、カーボンニュートラルの実現に貢献できる燃料であるとともに、未利用資源の活用により、「産業廃棄物の削減」と「再資源化」の両面を実現した製品です。



原料となる産業廃棄物



再生燃料「再生油Bio」

▶ 再生油Bioは、現在、3つの公的な評価を頂いています

令和5年度資源循環技術・システム表彰
経済産業省産業技術環境局長賞 受賞

当社は、「産業廃棄物からリサイクルした環境にやさしい重油代替燃料の開発」について、令和5年度資源循環技術・システム表彰における「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞しました。



▲2023年10月23日リリース▲



福岡県 県産リサイクル製品



第15回福岡県産リサイクル製品
(2023年3月)



北九州
エコプレミアム

北九州エコプレミアムは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。
©ていたん、北九州市

令和3年度北九州市エコプレミアム
(2021年11月)

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

地球温暖化や環境破壊への対策が急務となる現代において「持続可能な社会づくり」は世界の共通認識です。当社は、同じ思いを持ったお客さまの施設への太陽光発電設備を設置を通じて、ともに脱炭素社会の実現を目指しています。

▶ 導入事例



[2023年10月26日リリース▶](#)

株式会社吉野家(東京工場) 様
設置容量:399.6kW



[2024年4月4日リリース▶](#)

九州産業大学 様
設置容量:360kW



[2024年4月9日リリース▶](#)

東港金属株式会社(千葉工場) 様
設置容量:797.16kW



▶ 施工実績

当社の太陽光発電事業は、調達から販売・施工・メンテナンスまで、一貫したサービス提供を強みとしております。

法人向け太陽光発電

施工
実績

約**29,000**件

家庭向け太陽光発電

施工
実績

約**20,000**件

遠隔監視装置

施工
実績

約**11,000**件

※2024年3月末現在

補足資料（事業構造）

企業理念 「次世代へ快適な環境を」

エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』
再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に

つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅
流通市場形成

住環境領域

- HS
- ES
- SE

資源循環領域

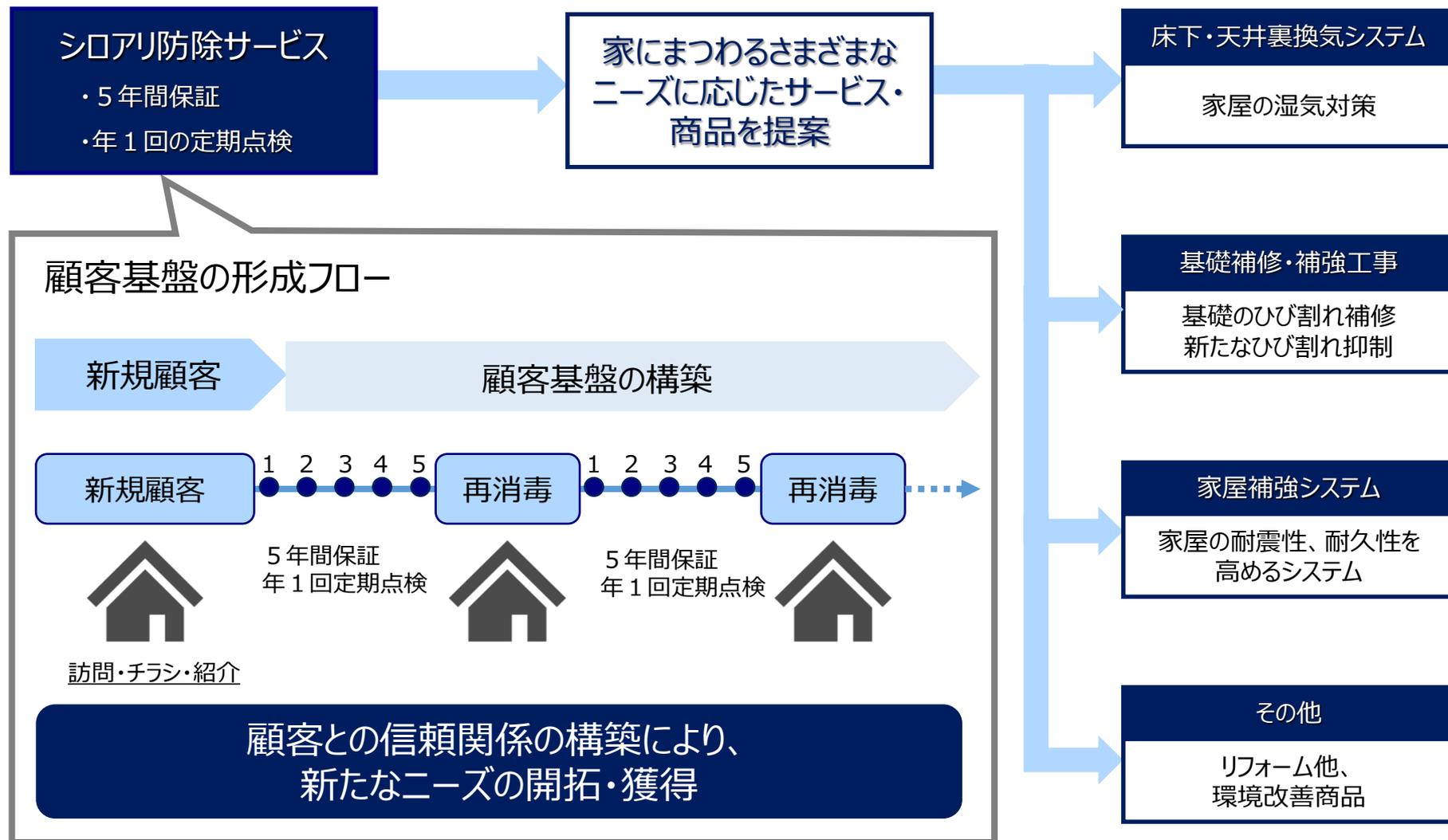
- 環境資源

『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、
プラスチック資源循環戦略

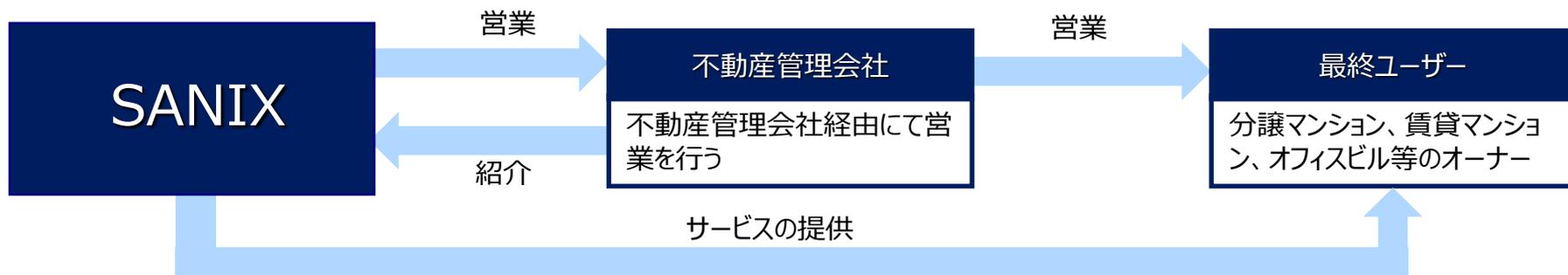
HS事業部門 事業構造

HS部門 事業構造

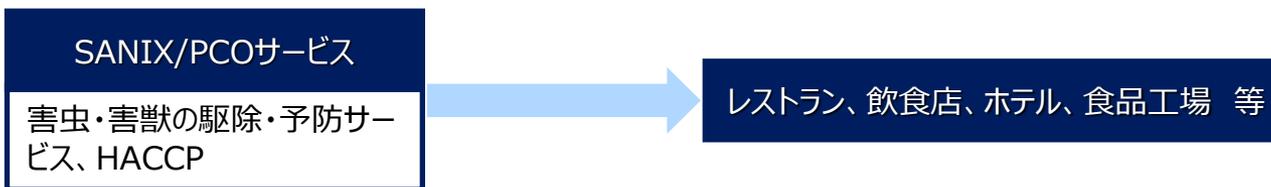
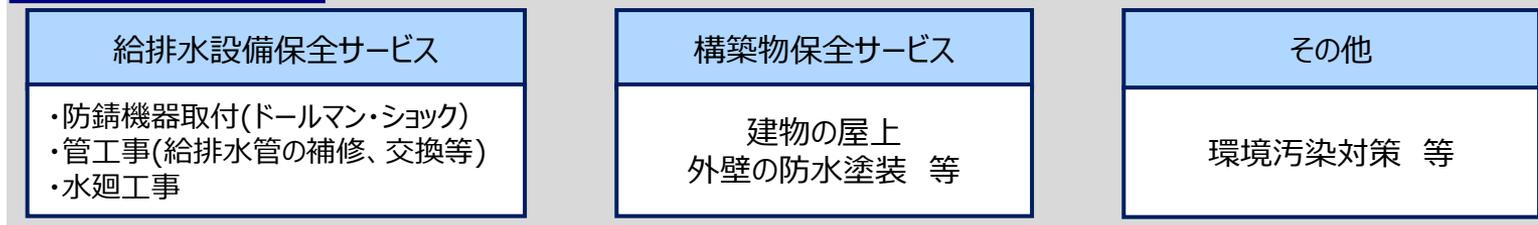


ES事業部門 事業構造

E S 部門 事業構造



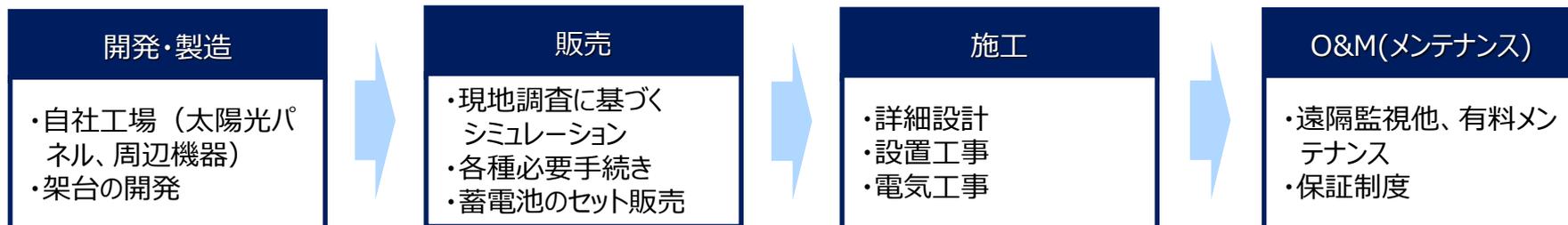
主なサービス・商品



SE/PV事業部門 事業構造

SE/PV部門 事業構造

調達・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



住宅向け（10kW未満） 主にSE事業部門

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

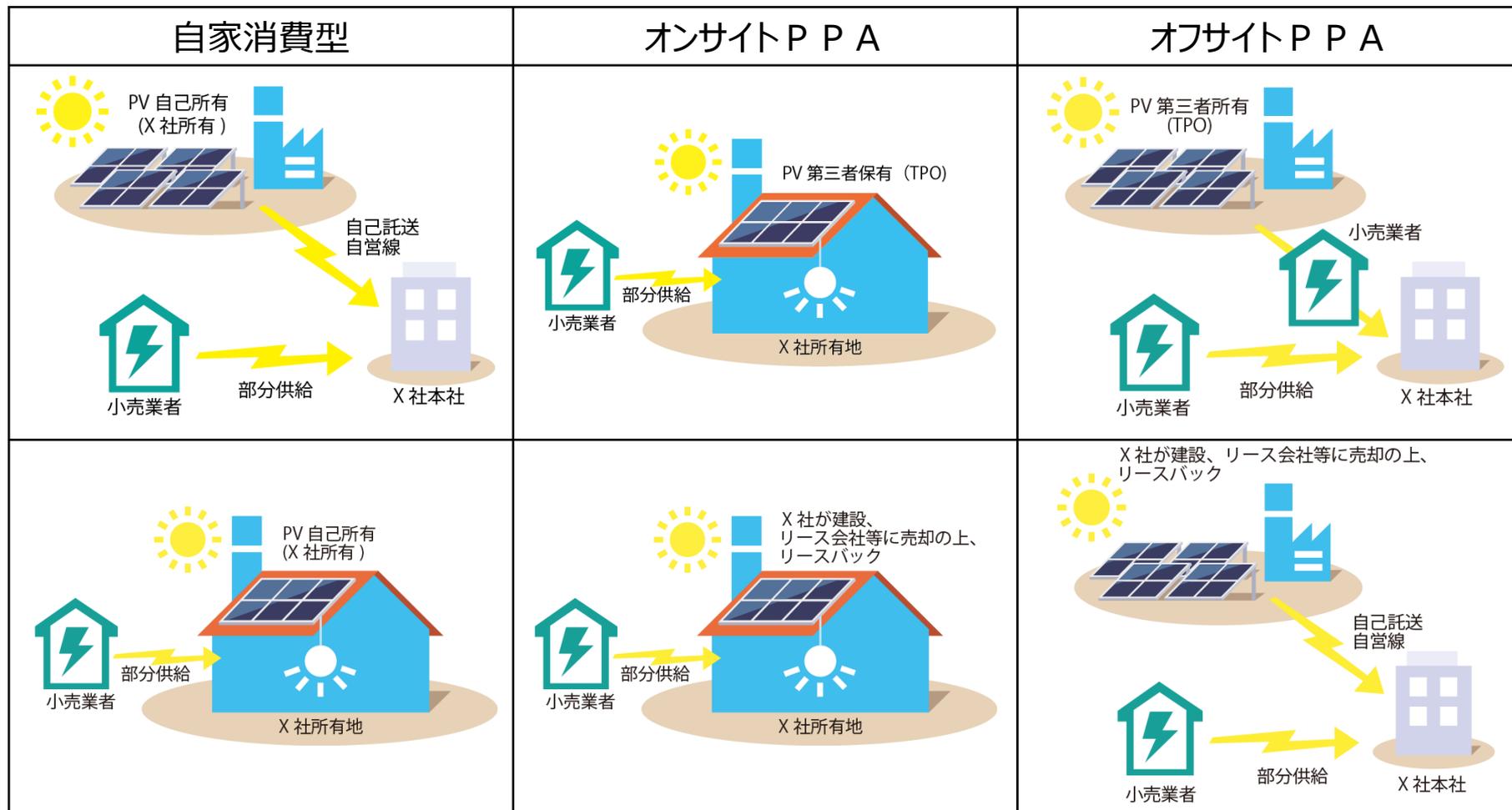
法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業部門

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化
 更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

太陽光設備の導入・保有、および電力の供給方法の 多様化・高度化

電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、
経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化

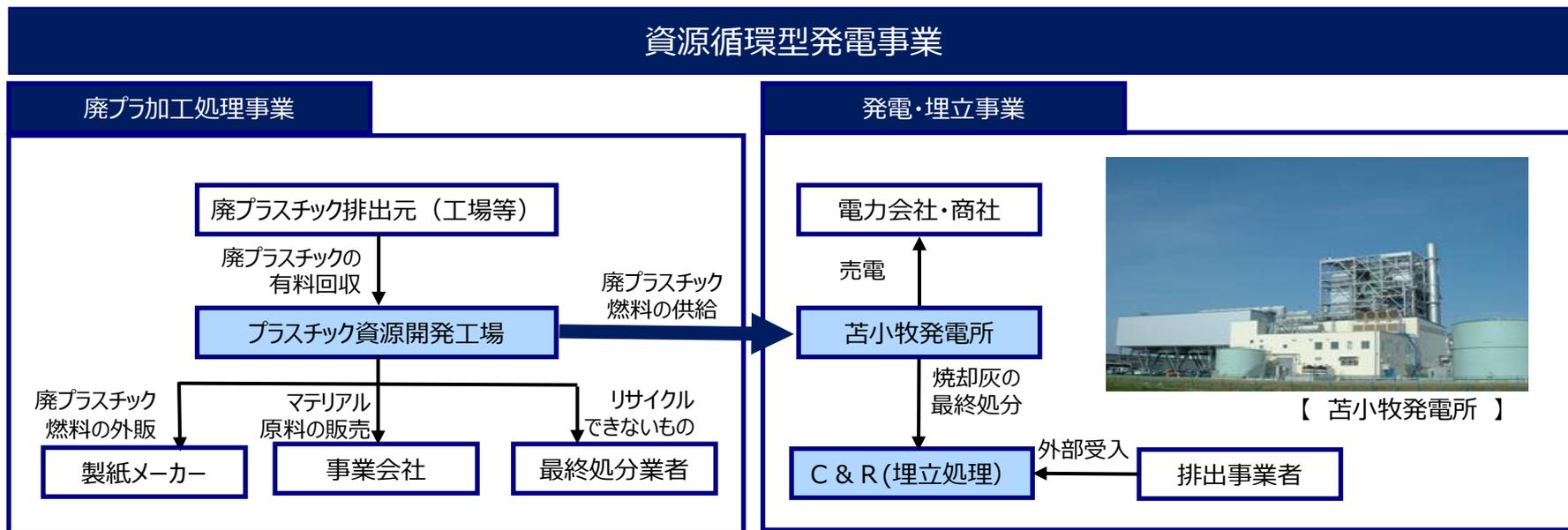


太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

環境資源開発事業部門 事業構造①

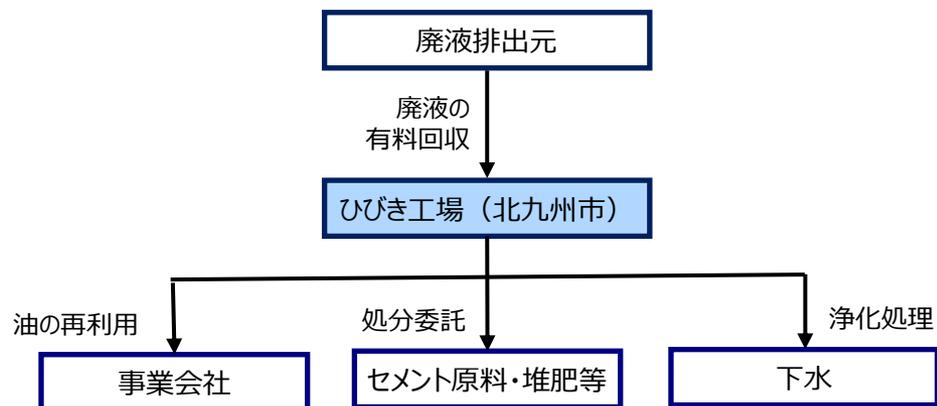
環境資源開発部門 事業構造

資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

【免責事項】

- 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

次世代へ快適な環境を
SANIX